



必ず小学校就学前に2回目の 麻しん・風しんワクチンを受けよう

～自分だけでなく周りの大切な人のためにも～



麻しん風しんワクチンは、**2回**接種が原則です

麻しんや風しんを予防する唯一の手段は、ワクチンです。

2回の接種を受けることで、1回の接種では、免疫がつかなかった人に免疫をつけることができたり、さらに免疫を増強させる効果もあります。

自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも予防接種は有効です。

予防接種を受けたことがない人はもちろん、1回受けたことがある

2回目の予防接種を受けましょう。



接種歴について、
母子健康手帳で確認してみましょう！

麻しん風しんワクチンの接種対象時期は、1歳と小学校就学前の2回です。

1回目：生後12カ月から生後24カ月までの者
(1歳から2歳未満)

2回目：小学校就学前1年間

(幼稚園または保育園の年長相当)



上記のお子さんは、市町村から送られてくる予診票をもって病院に行くと、

無料で受けられます。

まだ麻しん風しんの予防接種を2回受けていないお子さんは、かかりつけ医とよく相談し、2025年3月31日までに受けましょう！

麻しん・風しんってどんな病気？



どうやってうつるの？



咳やくしゃみなどによってウイルスが飛散し、飛沫感染や空気感染によって感染するよ。



どんな症状なの？

高熱や全身の発疹が特徴の病気だよ。

■**麻しん**は、インフルエンザウイルスと比べると6～8倍も強い感染力で、肺炎や脳炎などの合併症のために死にいたる危険性もあります！空気感染するため、手洗いやマスクでは予防できないため、予防接種が有効です。

■**風しん**は、麻しんに比べると症状が比較的軽い病気ですが、妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、「先天性風しん症候群」として難聴や白内障、心疾患などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります！

麻しん・風しんの予防接種を受けましょう！

■**麻しん**は、平成19・20年に10～20歳代を中心とした全国的な大きい流行があり、高知県でも患者が発生しました。流行した主な原因は、1回も予防接種を受けていなかった、あるいは、1回は受けたものの免疫がついていなかったことや年数と共に免疫が下がってきてしまったことなどと言われています。

平成21年以降、高知県では、麻しんの患者は報告されていませんが、他県では、海外からの輸入症例を契機に20～40歳代の方を中心とした流行が発生しています。

■**風しん**は、平成24・25年に20～40歳代を中心とした全国的な大きい流行があり、高知県でも患者が発生しました。その後、年々患者数は減少していましたが、H30・R元により全国的に流行しており、増加と減少を繰り返しています。

本県でも平成30年11月末に平成27年以来となる患者が確認されました。

麻しん・風しんを発症しないためには、ワクチンが有効です。予防接種を受けることで、自分だけでなく、周りの大切な人への感染を防ぐことができますので、早めに麻しん風しんワクチンを受けましょう。

麻しん風しんワクチンやその他の定期の予防接種ができる医療機関を掲載していますので、チェックしてみてください。

問い合わせ 高知県健康政策部健康対策課

TEL : 088-823-9677

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/kansen-yobousessyu.html>

